

同 工務局 (印刷部)
 同 (鉛版部)
 同 (植字)
 同 (文選)
 同 (選)
 同 (選)

齊藤又三郎
 藤本章六
 西尾銀次
 宮内留吉

別記 (二)

顧問 朝日奈知泉
 同 著 本 太吉
 同 勝田重太郎
 同 蛭田順一郎
 同 武井文丈
 同 行本邦彦
 同 廣瀬 弘
 同 佐藤 式

聲明書

此報三年十二月十九日附報報刊は紫藤院の著書『浮城物語』の長安(川)書院版の
 署名の違ひ依り不埒極まる此書を掲載し各二頁或三頁に一種の短書中傷を収めて其ま
 すか否かは是れ止むを得ざる自來年稿として其短書の聲明書の中かに載せしめ天下
 の士に公けするが動を仰ぐ所ありませう。

故人愚者淡香は其炳々として筆名を中かに馳せしめ、其報報の空の版に於ける其難の諸
 相は其の中上る者もなきこと、存下す。其意が現重役の経世に其の意を込めたるに及んで
 終に固難を極め、後者不認状を暴露せざるも、固難に不認状をせり。

所が最に於ける重役及幹部の行動は其意を越えて、寧ろ暴行に及んで其の如き
 りませう。即ち

彼等は此身以来の一切を以て其の及工場その他他信業を其の如き信託を其
 正規にせざることを暴行第一

其の寫最も破廉取する刑事事件と急率、其の性中一七取らざることを暴行の第一
 曰んば空漢存する存米の理を其の如き、其の如きと欺瞞し、其の如きと隠忍を其の如き
 等々の傍例の煩に堪えざる不従と能き業あるを其の如きと其の如きと其の如きと其の如き
 日々に乃て其の如きありませう。